

平成29年度 東北歴史博物館協議会議事録

日 時：平成30年2月13日（火）
14:00～16:00

場 所：東北歴史博物館大会議室

出席者・委員（50音順）

大郷町立大郷小学校校長	河合 裕也
多賀城市芸術文化協会会長	菊池 すみ子
株式会社河北新報社編集局長	今野 俊宏
東北生活文化大学高校入試広報室	須藤 由子
多賀城市城南小学校PTA会長	立川 靖子

次 第

- 1 開会
- 2 開会の挨拶 宮城県教育委員会理事兼教育次長 西村 晃一
- 3 委員及び事務局職員紹介
- 4 会長及び副会長の選任
- 5 議事
(1) 平成29年度事業報告
(2) 平成30年度事業計画
(3) 平成30年度事業計画東北歴史博物館中長期目標平成29年度自己評価（9月末現在）について
(4) 東北歴史博物館中長期目標前期（平成25年度～平成29年度）自己評価結果報告について
(5) 東北歴史博物館中長期目標後期（平成30年度～平成34年度）（案）について
- 6 報告 東北歴史博物館協議会資料収集専門部会資料収集方針について
- 7 閉会の挨拶 東北歴史博物館 館長 鷹野 光行
- 8 閉会

（配布資料）

- 資料1 「平成29年度事業報告」
- 資料2 「平成30年度事業計画」
- 資料3 「東北歴史博物館中長期目標平成29年度自己評価（9月末現在）」
- 資料4 「東北歴史博物館中長期目標前期（平成25年度～平成29年度）自己評価結果報告書」
- 資料5 「東北歴史博物館」中長期目標後期（平成30年度～平成34年度）（案）
- 資料6 「東北歴史博物館資料収集方針」

1～4まで記載省略

5 議事

議長： それでは議事に入りたいと思います。まずはその前に傍聴希望者の有無を確認したいと思います。この協議会は公開でございますので、傍聴希望者がいれば公開ということになっておりますけれども、いらっしゃいますか。

管理班長： 本日の傍聴希望者はございませんでした。

議長： それでは、早速議事に入りたいと思います。まず議題（１）「平成 29 年度事業報告」についてご説明をお願いいたします。

【平成 29 年度事業報告】（説明の概略）

1 企画展示事業

（１）常設展示

- ・総合展示は通年、総合展示室で旧石器時代から現代までの東北の歴史を展示。
- ・テーマ展示は、テーマ展示室 1 で①「カマ神」②「埴輪」、テーマ展示室 2 で③「骨格器の世界」④「柄鏡の美」⑤「染めの型紙」、テーマ展示室 3 では⑥「仙台の近世絵画－東洋の屏風－から」⑬「仙台の近世絵画－仙台四大画家－」を実施。ラスコー展期間中は特別展会場として使用。
- ・映像展示は東北地方の祭や民俗芸能の映像を上映。ラスコー展期間中は関連映像を上映。
- ・屋外展示の今野家住宅は、盆棚飾りや正月飾りなど四季に合わせて飾り付けを変えながら展示。

（２）特別展示

- ・「世界遺産ラスコー展－クロマニヨン人が残した洞窟壁画－」展
平成 29 年 3 月 25 日から 5 月 28 日までの 57 日間開催。クロマニヨン人が描いたラスコー洞窟の壁画と歴史を紹介するとともに実物大の複製壁画等を展示。観覧者数は 37,435 人。
- ・「漢字三千年－漢字の歴史と美－」展
平成 29 年 6 月 24 日から 8 月 13 日まで 44 日間開催。最古の漢字といわれる甲骨文字をはじめ、世界初公開となる文字の刻まれた兵馬俑など漢字の歴史と漢字を芸術の域まで昇華させた王羲之、顔真卿の拓本など漢字の美の二部構成により展示。観覧者数は 17,738 人。
- ・「熊と狼－人と獣の交渉誌－」展
平成 29 年 9 月 16 日から 11 月 19 日まで 56 日間開催。時に人を襲う野生動物として知られる熊と狼をとりあげ、害をなす側面と利用や信仰といった側面を通して動物と人との関わりを展示。観覧者数は 8,619 人。

（３）その他の展示事業

「宮城の明治期木造洋風建築」展をエントランスホールで、平成 29 年 9 月 20 日から 10 月 22 日までの 28 日間開催。

2 教育普及事業

（１）施設運営

- ・こども歴史館 利用人数を 12 月末で対比すると 2,455 人の増加。
- ・図書情報室 利用人数を 12 月末で対比すると 221 人の増加。
- ・今野家住宅 利用人数を 12 月末で対比すると 1,058 人の増加。

（２）催事事業

- ・館長講座 15 回、博物館講座 23 回、体験教室 11 回、多賀城巡り 14 回、民話を聞く会 6 回、体験イベント 3 回を実施。

（３）その他の教育普及事業

- ・出張授業を 7 回実施。
- ・館内及び館外でもボランティア研修を実施。
- ・学校教育との連携では職場体験として中学校 5 校、高校 1 校から合計 21 名を受け入れたほか、校外学習で来館した小中学生に講義を実施。
- ・多賀城民話の会の協力を得て、民話の授業を小学校 3 校 7 クラスに実施。
- ・博物館実習では 9 大学 16 名を受け入れたほか、連携大学院として東北大学の大学院生に対し、文化財学の教育、研究の指導を行った。

3 調査研究事業。

- ・分野横断的なテーマとして「歴史的災害展示研究」を進めており、総合展示室リニューアルを前提とした展示構成の素案を立案した。
- ・考古、民俗、歴史、美術工芸、建造物、保存科学の 6 分野において、宮城県、東北地方を中心

に調査研究を行った。

- ・歴史的災害展示研究関連（基盤 C）の科学研究費助成金を3年間獲得し、5月に活動方針を決定し、3月には本年度の研究成果の報告会を開催予定。
なお、科学研究費以外では、外部資金で4件獲得。

4 資料管理事業

(1) 資料の収集・利用

- ・実物資料の購入はなし。資料の寄贈は、民俗資料で2件、美術資料で1件。資料の貸し出しは、実物が8件566点、写真が91件228点。

(2) 保存環境・保存処理等

- ・収蔵庫、展示室の環境確保や、遺跡等の出土資料の保存処理などを実施。他自治体からの調査依頼に対して調査協力や指導助言を行った。

5 東日本大震災対応

(1) 被災文化財の保全活動

- ・石巻市、東松島市、気仙沼市などの一時保管している被災資料について、継続して適切に経過観察・保全管理を行った。他機関からの要請に応じ、被災資料一時保管施設等の環境調査や整備に協力したほか、宮城県考古学会や文化財保存修復学会で被災文化財への対応等について発表を行った。

(2) 県内復興関連発掘調査への協力

- ・引き続き県文化財保護課が行う復興関連の事業に伴う発掘調査に、考古学分野の職員を一名、1年間を通じて派遣。

6 その他

(1) 予算

- ・483,390,000円。

(2) 入館者統計

- ・12月末対比で、20,886人増。

(3) 友の会

- ・会員数は12月末対比100件（組）の増、家族会員の実人数ベースでは165人の増。

議 長： ありがとうございます。ただいま事務局から資料に基づいて詳しい説明をしていただきました。皆様から質問とかご意見等ございましたら頂戴したいと思います。

では、今のところないようですので議題もたくさんありますのでこのまま進めていき、次の議題に移りたいと思います。（2）平成30年度事業計画について事務局より説明お願いいたします。

【平成30年度事業計画】（説明の概略）

1 企画展示事業

(1) 常設展示

- ・総合展示室はこれまでどおり継続展示。
- ・テーマ展示室1から3及び映像展示室は、特別展「東大寺と東北」開催期間中は特別展会場として利用。その後テーマ展示室1で2本、テーマ展示室2で3本、テーマ展示室3で6本の展示を予定。
- ・映像展示室は従来通り、無形文化財の行事や民俗芸能の上映を行い、今野家住宅は平成30年度中に屋根の葺き替え改修を行う。

(2) 特別展示

- ・「東大寺と東北－復興を支えた人々の祈り－」

4月28日から6月24日までの51日間開催予定。東大寺の復興の歴史が、東北の今と未来を照らす道灯りとなり、何よりも子ども達が夢と希望と誇りを持つことのできる豊かな東北を築くことを願って行うもの。展示資料は、国宝17点、重要文化財25点を含む約119点で、関連行事として記念講演会4回、トークショー、展示解説8回などのほか、ワークショップとして写経体験、砂金採りなどを行う予定。目標観覧者数は80,000人。

- ・「タイムスリップ！縄文時代」展

7月21日から9月24日までの57日間開催予定。近年の発掘成果を積極的に用いて縄文時代の生活を紹介するもので、小学校5、6年生を主な対象としている。展示資料は約200点を予定し、簡潔な解説パネル、イラストやハンズ・オン復元模型など様々な展示手法を用いて、体験して学べる内容にすることとしている。目標観覧者数は8,500人。

- ・「伊達綱村」展

10月6日から12月2日までの50日間開催予定。仙台藩第4代藩主伊達綱村が、没後300年を迎えるにあたり、藩主として領内政治を主導し、経済・文化の各方面にわたって大きな影響を与えたことを紹介する。目標観覧者数は9,500人。

2 教育普及事業

(1) 施設運営

- ・図書情報室、今野家住宅、映像展示室のそれぞれについて、平成29年度と同様の運営を行う予定。こども歴史館においては、新インタラクティブシアターで歴史的災害教育に基づく防災教育活動を活発化していく。

(2) 催事運営

- ・館長講座、博物館講座体験教室等、平成29年度と同様に力を入れて運営していく。

(3) その他の教育普及事業

- ・平成29年度同様、学校教育との連携による出張授業、出張体験教室などを実施予定。

3 調査研究事業

- ・考古、民俗、歴史、美術工芸、建造物及び保存科学の6分野で、記載のと通りの調査研究事業を行う。

4 資料管理事業

- ・平成29年度と同様、資料の収集・利用、収蔵環境の維持管理、遺跡出土品の保存処理などに努めて行く。

5 東日本大震災対応

(1) 被災文化財の保全活動

- ・関係機関等と連携・協働して、資料の保全、修理活動を行っていく。被災文化財の修理や保存に関わる技術的な研究も進める。

(2) 県内復興関連発掘調査への協力

- ・考古分野職員を調査員として派遣予定。

議 長： ありがとうございます。先ほどの事業報告の中でたくさんの方々を楽しみにしていた様々な活動が来年度も継続して計画 特別展では大変大きな催し物の説明もしていただくことができました。皆様から質問とかご意見等ございましたら頂戴したいと思います。

菊池委員： 震災後、子どもたちを対象とした事業、子どもたちがこの歴博に来てああ良かったなど思えるようなことをよく考えてくださっていると思うのですが、この東大寺展、私も多賀城でも楽しみに盛り上がっております。この主旨のほうに先ほど笠原副館長さんからお話ありましたように、何よりも子どもたちが夢と希望と誇りがもてるということで考えていらっしゃるようですが、その魅力を子どもたちにどうやって伝えていくかというのが4月28日にオープンですから考えていらっしゃると思いますが、子どもたちのためにどういう施策があるか具体的にわかれば教えていただきたい、というのがまず一つ。あともう一点ですが、伊達綱村展が行われますが、ここの中で例えば記念講演会で18代当主の伊達泰宗氏の講演などは考えていらっしゃるかどうか、決まっているならやはり伊達家はどうかと私個人的には思ったのですが、また別の方が決まっているのかいないのかというのが、私はわかりませんがどのようなものか教えていただきたい、ということでよろしくお願いたします。

議 長： はい。今二点質問がございました。まず一点目については東大寺と東北について子どもたちに向けてについてお話いただきたいというのと、二点目は伊達綱村展の記念講演会でどなたを予定されているのか、現当主さんは候補としてあがっているのかどうかとの質問

がありました。

笠原副館長： まず一番目の件でございますが、東大寺展と東北を子どもたちにどう伝えていくかということでございますが、まず具体的にどういう解説でなどはこれから詰めていくところでございますので十分その点を配慮しながら考えていきたいという風に考えております。関連イベントの中で奈良と東北の子どもたちとの交流コンサートということで東北地方と奈良の子どもたちを会場は当館の講堂なんですけど子どもたちとの交流する場を設けて歌で交流する、日にちは6月10日の日曜日でございますがそういう機会も設けておりますので、東北や奈良の子どもたちの間での情報交換、そういったところでもおこなっていただく計画はしているところでございます。

佐藤班長： 企画班長の佐藤でございます。伊達綱村展でございますが、こちらにつきましては伊達綱村展実行委員会というものを組織しまして塩釜市教育委員会も含めた形ですすめていますが、当館の記念講演会につきましてはまだ未定のところがございます。さきほどお話もありました、伊達家のご当主をお招きする講演会などは塩釜市教育委員会で企画している最中でティアアップ企画になるかどうかはまだわからないんですけども、この展示の同じ期間にそういったイベントを館外になるんですけども行っていきたいと考えているところでございます。あとは館内の記念講演に関しましては各主催に入っております塩竈神社さんや東園寺さんですとかそういった関係の方に集まっていただき、楽しいイベントができれば、というふうに考えております。

議長： ありがとうございます。時期としても計画の段階がたくさんあるということでその際には歴史博物館だけではなく関連機関との調整を図りながら必要なご意見を反映させながら進めていく形になります。質問の回答はこれでよろしいでしょうか。

菊池委員： ありがとうございます。

議長： 本当に話し合いが先ほどまでは白黒の状態が、質問をいただいてとてもいろいろな話がでたように思います。ぜひ今のような形でお話いただくと中身が詳しくわかっていいのではないかなと思います。よろしく願いいたします。

それでは次の議題についてよろしいでしょうか。次に議題（3）の東北歴史博物館中長期目標平成29年度自己評価と、（4）東北歴史博物館中長期目標前期平成25年度～平成29年度自己評価結果につきまして、あわせて事務局より説明をお願いします。

【東北歴史博物館中長期目標平成29年度自己評価】（説明の概略）

I 目的

開館以来の博物館を取り巻く環境の変化や東日本大震災への対応等の課題に取り組むため、平成25年度を初年度とする平成29年度までの5年間の中期目標と、平成30年度以降の長期目標「東北歴史博物館中長期目標」を策定し、より魅力的な博物館を目指して取り組みを進めてきた。

平成29年度は、中期目標達成期間の最終年度になるため、5年間の総括と中長期目標後期の策定の方向性を見極めるために、取りまとめの時期を例年より3か月早い昨年9月30日現在で行った。

III 取組み項目

9つの項目に16の活動方針と32の達成目標を設定し事業を進めてきた。

IV 結果概要

当館の職員全員で自己評価を行った上で、当館の班長以上で構成する中長期目標達成委員会において館としての評価を行った。

総合評価についての達成度は前年度の2.7より0.2ポイント高い2.9。32の達成目標中、自己評価が「ほぼ達成」は31で、そのうち評価の高かった3.0以上のものは「魅力的な展示企画の充実」や「外部巡回展の誘致による幅広い県民の来館推進」など15。

一方で、「やや不十分」となる2.5未満のものは15番「館のロゴの検討」1つであった。

【東北歴史博物館中長期目標前期平成25年度～平成29年度自己評価結果】（説明の概略）

I 取り組みの概要

- ・結果の概要について、評価結果は達成目標 32 のうち、「達成」は 4 つ、「ほぼ達成」は 25、「やや不十分」は 3 つとなった。
- ・「達成」となった項目について評価のポイントを説明。
- ・達成目標番号④「外部巡回展を積極的に誘致し、幅広い県民の来館を推進したか」は、マスコミやプロモーター等との連携強化に努めて巡回展の誘致を行い、30 年度の東大寺展開催につながった。
- ・達成目標番号⑨「外部資金の導入・外部機関との連携をさらに推進します」は、文化庁補助事業のほか科学研究費の獲得に加え、他機関との連携では東北大学と学生指導について連携したほか、他地方自治体や県内外の博物館との調査・研究を継続した。
- ・達成目標番号⑳「博物館友の会の充実を図ります」は、友の会ホームページを立ち上げたほか会員とともに各種事業を企画・実施したこと、会員数が年々増加していることがポイント。
- ・達成目標番号㉑「県立博物館として、県内の文化財レスキュー活動をリードし、その推進に努めます」は、当館独自に県内の被災した資料の保全措置や保存調査、方針協議などを継続して行っていることや、平成 28 年度末に解散した宮城県被災文化財等保全連絡会議の代表幹事兼事務局として、行政の枠組みを超えて被災文化財の保全措置や修理支援などの諸活動を行った。
- ・「やや不十分」となった項目について説明。
- ・達成目標番号㉒「各分野ごとの資料収集方針に基づき、計画的な資料収集を行います」は、当館の資料収集方針として明文化し広く公開していなかったことや、資料購入予算が確保できず収集は寄贈寄託に依存していることによる。なお、資料収集方針については、平成 30 年 1 月 19 日の博物館協議会資料収集部会において審議を受け、本日委員の皆様にご報告として報告させていただくこととしている。
- ・達成目標番号㉓「館のロゴを検討します」は、制定までの明確な計画が策定できなかった。なお、「ロゴの検討」については、職員による検討委員会を年末に立ち上げ、条件設定やスケジュールなどの案の検討を始めたところ。今後も後期の達成目標として、「ロゴの制定と活用」として取り組む。
- ・達成目標番号㉔「効果的な事務運営が確保される職員配置の検討を行います」は、増大する業務の中で、結果として職員を増員することができなかったこと、イベント等については部・班の枠を越えて支援体制をとってきたものの、その場限りになってしまったことなどによる。
- ・この結果を踏まえ、成果が上がらなかったものについては、課題を検討し継続して取り組み、成果が上がったものについても維持向上につながるよう視点を変え、新たな課題として、平成 30 年度からの指標となる「東北歴史博物館中長期目標後期」（平成 30 年度～34 年度）で取り組むこととしている。

議 長： ありがとうございます。成果など各そのものについての説明と、好ましくなかったものについて併せて説明がありました。後者について、可能なものについては今後の方策について具体的にお話いただきました。最後の人員に関するものは、館だけではなく県全体の人事に絡むものですから、なかなか難しいものですが、具体的なことはこれからということでした。ただいま説明いただきました件について何かご意見、ご質問などございませんでしょうか。

須藤委員： 4 番の外部の巡回展の幅広い県民の来館を推進しますというところが 3.5 ということでここ何年かアンコールワットもそうですしラスコー展もそうですが、テレビとか新聞などで宣伝していただいているので、東北歴史博物館には大物がくるんだな、とみんな期待していると思うんです。それから今回の東大寺展もテレビで見たのか、すごい大物がくる！と非常に楽しみにしていたのです。やはりそういう宣伝というか河北新報さんもいらっしゃるの、地域を応援するという形でやっていただくといいと思います。テレビのスポットというんですか、あれだけでも違うと思うし、あと学校ではこういう立派なポスターをいただくと、貼っていても生徒も壊さないんですよ。そこで行ってみようかな、など保護者にも啓発できるかなと思います。なかなかお金もかかることだと聞いていますが、長い目で見れば、東北歴史博物館は年に 1 回でも大きな展示が来るな、仙台市博物館だ

けじゃないんだぞということですのでごくいいと思います。

2 点目として、外部資金ということで、9 番ですね、いろんな科研費なんかを応募なされて、積極的に資金集めをしていることが分かりました。とくに防災関係については国をあげて中学校や高校でも防災教育を学習指導要領でもずいぶん強調しています。また、高校もですね、今まで地理というものがなくなっていたんですが今回の学習指導要領の改訂で復活することになりました。主に防災のことと関連させるような話です。防災教育の面では多賀城市でも震災で影響を受けていて多賀城高校（災害科学課）ともタイアップしているとニュースで取り上げられ、県、塩釜市さんともいろいろタイアップとかあったので宣伝して PR していくといいなと思います。

あと 3 点目としては小学生の夏休みの企画がなされ、おじいちゃんおばあちゃんが小学生を連れてきてリピーターというお話をいただいたんですが、それは非常に重要なことです。今、なかなかお母さん達が忙しくて、お子さんを夏休みに旅行に連れて行く家庭とそうでない家庭など、格差が広がっていると思うんです。身近なところにあるこの博物館に小学生の頃におばあちゃんに行った、おじいちゃんに行った、それがリピーターとして、中学ぐらいになれば自転車でこれるとか。そういった意味でやっぱり小学生の段階で本物に触れる体験をすることは大切です。本企画を継続して夏休みウィークのように定番としてやっていくといいのかなと思いました。感想でした。

議長： ありがとうございます。3 点お話いただきました。まずは特別展示での広報活動、テレビ等も活用なさってと、集客を図って行って良いのではないかと。これからもたくさん来ていただくために、その中には東大寺展、ラスコー展など知名度の高い内容をもってきていただいているのも関係しているのかと思います。

2 点目については外部資金の活用をなさっていることについては今後ともぜひ継続していただいて資金調達を様々な方法を取り入れて館運営に反映されればと、お話にありました。その中でぜひ宮城県、とりわけこの多賀城地区も津波被害があったところですから防災というキーワードで、もっともっと工夫や展開をしていただけるとありがたいということでした。

3 点目についてはいわゆる長期休業中の催し物については、様々な家庭の事情もあるので地域性なども活かしながら今後も継続していただければというお話がありました。この 3 点について事務局の方からなにかございましたら。

笠原副館長： まずは 1 番目の広報関係になりますが、巡回展では特にマスコミ、新聞社さん放送局さんとの連携、今回の東大寺展につきましては多賀城市ともかなり密接な関係をもちながら進めておりますので、新聞を通じた広報、それからテレビを通じた広報、今回はさらに JR とも連携もしてということを考えておまして、さらにきめ細かい広報、あと今回は県内の小学 4 年生以上はできるだけチラシが配布できるような形で考えておまして、できるだけ多くの人達にきていただけるように考えているところでございます。

また 2 番目の外部資金のところにつきましては防災教育の関係でございますけれども、ここは私どもとしては常設展示のなかに災害の歴史展示の中にどういう風に盛り込んでいくかという研究、具体的に展示の中にどういう風に反映させていくかということもいろいろ調べているところでございますけれども、それがうまくいったところで常設の中でそれをうまく活かせればというところ、それから多賀城高校とも連携しながら、それから 3 階のこども歴史館にもインタラクティブシアターでプログラムを用意してございますので展開していきたいということで、今後の見通しをもってるところでございます。

夏休みの企画についてはこれまでの中長期のなかで子どもプロジェクトということで重点的にやってきておりますけれども、こういった視点については今後も継続してやっていきたいと思っているところでございます。

今野委員： 東大寺展はですね、かなり力は入っております。主催の名前が入っている以上は東大寺展を PR しながら、おそらく始まりましたら何万人入りしましただけではなく、今回の展示にくる国宝級のものの見所はどれだ、みたいなシリーズをやれみたいな話になってくると思います。その辺のことは編集局としてもがっちり力をいれてやっていくことになるのかなと思っております。正直なところ、マスコミ関係が主催に入るとそれ以外のテレビ局はこな

かったりするんで、そこをどうやってうまく引きつけるかはたぶんやりかただと思うんです。あとテレビはオープニングが土曜日だとローカル枠がほとんどないんです。平日はいっぱいあるんですけど。そこらへんはイベント関係のあれでしてこれに関しましては弊社としても近年にない力の入れようですのでご協力させていただきたいなということで。たぶん目標8万人という企画展はなかなかないはずなのでおそらく目標どおりうまくいけば近年にないぐらいの数字がでるのはないかなとさっき言っていました。

あとはもうひとつ、私も初めて委員になってますから勉強になってますが、要は企画展は水物という部分があるので、企画展以外の常設展やイベントで来る人の人数っていうのはどうキープできるかってところが大事なところなんですね。ここ十数年、十数万人台をキープしてるというのはそのところが効いているのだろうなと思うんですけども、そういうところが地道な努力かなという感じは個人的に思っていました。感想です。

議長： ありがとうございます。今、企画展にあわせて常設展にあたる部分なども話題に挙げられておりました。あとは河北新報社さんから熱い応援をいただきましたので、ぜひそれをうけて進めていただければと思います。

それではこの件についてはこの辺でいいでしょうか。次に進みたいと思います。次に議題（5）ということで東北歴史博物館中長期目標の後期（平成30年度～平成34年度）について事務局より説明をお願いします。

【東北歴史博物館中長期目標後期（平成30年度～平成34年度）】（説明の概略）

- ・当館では、入館者数の減少傾向など博物館を取り巻く環境や東日本大震災への対応等の課題に取り組むため、平成25年度を初年度とする「東北歴史博物館中長期目標」を策定し、より魅力的な博物館を目指して事業を推進してきた。目標達成に向けた前期の5年間の取り組みの自己評価は、達成目標32のうち、「やや不十分」は3つあったが、ほぼ計画どおり事業を推進できたのではないかと考えている。このことを踏まえ、今後、後期5年間の取り組みの方針としては、長期的な視点から活動方針等の大きな枠組みは変更しないものの、前期の達成状況と新たな課題を見極め、これらを達成目標に反映させた「東北歴史博物館中長期目標（後期）」を策定することとした。
- ・策定に当たっては、各部の職員を構成員とする中長期目標（後期）策定作業チームを編成し、前期の達成状況の検証とこれを踏まえた個別の達成目標の見直しなど、11月末から6回検討会を実施し、原案づくりを行ってきた。この原案を基に、班長以上で構成する東北歴史博物館中長期目標達成委員会で検討を重ね、東北歴史博物館中長期目標（後期）」案を策定したところである。
- ・Iの活動方針について。期間を通した重点目標として「東日本大震災への対応」は引き続き取り組むが、前期の「こども利用促進に向けた取り組みの推進（こどもプロジェクト）」を、対象や活動範囲を広げた「“み”たい博物館情報創造プロジェクト」に変更している。
- ・後期の各達成目標は、職員の意見を集約し設定しているが、共通しているのはすべての博物館活動を魅力ある知的情報として創造し、発信・提供していくということである。その共通項を「“み”たい博物館」をとしてテーマ設定を行い、県民、その他すべての人々を対象にした博物館利用促進をはかるためには、展示、教育普及、調査研究、資料管理、広報、来館者サービス、施設・環境整備等、すべての博物館活動を、発信・提供すべき価値と魅力ある情報として位置づけ、人々を魅了し「“み”たい」という気持ちをくすぐる博物館活動を創造することを目指すものである。後期においてはこれを、「博物館情報創造プロジェクト」として推進してまいりたいと考えている
- ・後期の達成目標の設定に当たって語尾の表現を、「目指す」「検討する」から、決意を込めて「〇〇する」「〇〇します」と改めた。
- ・達成目標数は、前期の目標を統合したのがあり、1つ減って31となった。
- ・1ページの常設展示・企画展示の項目では、引き続き内容を充実させるとともに魅力ある展示にしていくことにしているが、①の総合展示室のリニューアルについては、前期のリニューアルを目指すから、基本構想を策定するに、実現に向けて一歩踏み出している。
- ・2ページの教育普及では、特別展と連動した事業の開催や、アンケート結果、前年度実績を踏

まえて、より充実した内容で取り組んで行くこととしている。

- ・ 3 ページの調査・研究では、引き続き外部資金の導入を図るとともに、より調査・研究成果の公開を意識するとともに、他機関との連携、協働で調査・研究に取り組むこととしている。
- ・ 4 ページの資料の収集と保管・活用では、引き続き研究分野ごとの資料収集方針に基づき計画的な資料収集を進めるとともに資料のデータベース化を進め収集資料の情報公開を推進していくこととしている。喫緊の課題である収蔵施設の拡充、資料の再整理について、予算要求を通して協議を重ねることとしている。
- ・ 5 ページの情報発信では、東北歴史博物館を今まで以上にアピールしていくため、多賀城市をはじめ他自治体や美術館など機関と連携を強化し、より広く、迅速に、魅力的な情報の発信と公開をしていくこととしている。ロゴについては、前期の評価は「やや不十分」としたところだが、開館20年を迎える平成31年9月を目途にロゴマークを制定し、活用していくこととしている。
- ・ 6 ページの県民参加では、今後ますます発達する生涯学習社会にに応じていくため、東北歴史博物館の機能をこれまで以上に広く社会に解放していくことや、県民の皆様のご意見を積極的に館の運営に反映させること、ボランティアや友の会会員の皆様が、積極的に多様な活動に参画できるようにしていくこととしている。達成目標⑫だが、友の会の会員数が増加してきたので、自立した会の体制整備に向けて助言・提案していくとともに、達成目標⑬の大学等の学校単位の利用促進については、平成30年度からキャンパスメンバーズ制度を通して、学生等に東北や宮城の歴史と文化に親しむ機会を広げられるよう、取り組みを進めることとしている。
- ・ 7 ページの施設の整備・管理では、当館はオープンから約20年たち、施設設備の老朽化が進んでおり、引き続き、すべての来館者の安全と資料の保全管理に配慮した施設設備の整備を進めていくこととしている。達成目標⑭の「情報システムを更新します」は新たな目標で、情報量の増大や SNS の普及によって現在の機能では対応が不十分になっており、ホームページの多言語化や SNS 機能を盛り込む必要があることから、新たに目標として設定したものである。⑮の「災害時の施設利用・管理について取り扱いを整備します」も新たな設定で、仙台保健福祉事務所や塩釜地区消防事務組合との連携や、当館の半数勤務体制時の対応についてマニュアルの見直しなどを行うこととしている。
- ・ 8 ページの組織・人員では、組織が硬直化することのないよう、また、柔軟で機敏性のある組織運営ができるよう、現行の組織・事務分担を検証するとともに、効率的な事業運営が確保されるよう随時調整をしていくこととしている。
- ・ 9 ページの東日本大震災対応では、東日本大震災による被災文化財へのレスキュー活動は、昨年度で一段落を迎えた。今後は達成目標の⑯から⑳に記載しているが、被災文化財の保全活動をリードするとともに、災害に関する調査・研究を進め、常設展示をはじめとする公開・普及事業での活用に取り組むこととしている。
- ・ 最後に、当館は県内唯一の県立博物館として、宮城県に立脚しながらも東北地方全体の歴史・文化を総合的に捉え、その特色を広く発信することにより国際化時代にふさわしい地域づくりとその発展に貢献して行くこととしている。今回策定した具体的施策、事業を推進していくことで、当館の果たすべき役割を全うし、より魅力的な博物館を目指してまいります。

議長： ありがとうございます。これまでの5年間をふまえて来年度30年度から34年度までの中長期目標について説明していただきました。長いスパンを持って計画的に進めていくということでした。委員の皆様からご質問ご意見等ございましたらお願いします。なければ次の報告に入っていきたいと思っております。事務局から説明をお願いいたします。

6 報告

東北歴史博物館協議会資料収集専門部会資料収集方針について

【東北歴史博物館資料収集方針】（説明の概略）

- ・ 資料収集専門部会については、博物館協議会条例第7条で定められている部会で、資料収集に関する事項を調査・審議することとなっている。去る1月19日に部会を開催し、資料収集方針を昇任いただいたので報告するもの。

- ・基本方針の策定に至った経緯としては、中長期目標前期の結果として「やや不十分」との評価であり、予算確保の困難、寄贈・寄託という形の資料収集に依存していること、さらに当館の資料収集方針を公開していないことが課題ではないかという評価があった。これを受け、今回資料収集の基本方針を策定したということである。
- ・東北歴史博物館資料収集方針では大きく3つの項目立てをしている。「1 基本方針」として、①宮城県、東北地方の歴史民俗などに関わる資料の収集、②散逸あるいは滅失の危険のある資料の収集及び保管、③全国的な視野から東北地方の歴史民俗などを広く展望することのできる資料の収集、の3つを掲げた。「2 当面の収集方針」として、これまで各分野で策定してありました分野ごとの収集テーマを掲げた。「3 特記すべき収集方針」として、東日本大震災の被災地に立地する県立博物館として、「震災復興に貢献する博物館活動の積極的展開」を活動方針とし、資料収集にあたっては、災害に関する資料の枠組みや概念規定を、総合展示リニューアルも視野に入れながら明確化し、その修復や保存に関わる資料や情報も収集することを各研究部門共通の方針とする、とした。
- ・今回、この方針を策定・公表していくことで、博物館の資料収集の基本方針をより明確化し、新たに資料購入費の確保、あるいは資料収集計画の立案につなげていきたい。

議 長： ありがとうございます。今の説明について各委員の方からご意見ご質問等ございませんでしょうか。方針の示したあとの具体物、あるいは、今、被災関係のことについてもあげておられましたけれども、なかなかそれについても他のいろんな被災物についての保存方法について。いろんな考えがある中でのことですので、これから方針からまた一步進んだ上でも大変なことではないかなと思います。ではこの件についてはよろしいでしょうか。

その他なければ議事と報告を終了するのですが立川委員さん、何でも結構ですのでせっかくおいで頂いたのでお声を聞かせていただければありがたいなと思います。感想でも質問や今日お考えになったことでもよいのでよろしくお願いたします。

立川委員： 多賀城生まれ多賀城育ちですので近くにこの博物館があるということで、できた時から親しみやすいと感じております。私は今、子どもが3人小学生ですけれども、子どもを視点とした考え方を見させていただくんですけども、やっぱり子どもが来やすい、子どもがこちらに来るときは3階のこども歴史館の資料を見るんですけども、せっかく素晴らしい常設展、初めて見たときは驚いたんですけども本当に素晴らしい常設展をもう少し子どもたちがこっちにも興味あるよという流れになればいいなと常々思っておりました。一度子どもを連れていった時なんですけど、子ども向けにいろいろ工夫されておまして子ども向けのものですとか、ウォークラリー的なこれを調べましようなど自分が興味がある紙を取って回ってみるのをやらせたことがあったんですが…、文章もたくさんありまして小学生が読むのが大変なんですよね。なのでわかりやすく私も説明しながらのせるんですけど、沢山ありますので私もどこをどう説明したらいいかわからないなという感想がありました。

あとですね、子どもですのでキャッキャキャッキャなるんですよ。もちろんああいうところで変なゲームとかはしだしたりしないんですけども嬉しいことがあると声にもだしますし、興味があるものにサーッといきますし、まだルールが分からない学年の子どもでございますのでそういう子達にもう少し館の方達、係の方達が温かく見守るようなそういう対応をしていただけたら良かったなと思ったことが何点か気づいたことがあったんです。なので私もこんな立派なのを見て東北の歴史を覚えてもらいたいな、だけど子どもを連れて行っていいのかなと躊躇させるような部分も実際あるので、近所に住んでいながらもそういう面もありましてなかなか足が運べないなとちょっと常々感じておりました。なので資料がたくさんあるなかでどうすればいいのかなと考えていたんですがやっぱり予算も中々ないと思うんです。人員というか職員の数も限られているかと思うんですが、ボランティアというのを見させていただいて、今野家のボランティアの方はたくさんいらっしゃるようですが、館の中の常設展にもボランティアの方を入れていただけたらいいんじゃないかなと、私も突拍子もないことを言っているんですけども、ちょっとひらめいたのです

が、大学生の方ですとか、学生ボランティアとして常設展の方に1名でもいいんです、子どもや遠方から来られた方がたくさんある資料を見ていくのは大変だと思うんです。そこへさっと来ていただいてこれはこうです、ここはこうです、というふうに学生の方達に知識の切磋していただいて、たくさんの方々に説明していただいて歴史のおもてなしをしていただけたらいいんじゃないかなと思う。来館者の数を増やすために他の博物館とは違うということをしてアピールしていかなくてはいけないのではないかと思います。常に学生ボランティアがいる博物館ってないと思うんですけれども、そういう方も入れ込んでそのことに関してメリットもたくさんあるよ、人と人の温かさ、温かいつながりとか、知識が向上できるとか、小中学生も分かりやすく親しみのある効果があるのではないかと思いますので、せっかく立派な手の込んだ実物がありますので地元の子供達にぜひ歴史好きな子ども達たくさんいますので人と人のつながり、おもてなし、温かさを大切に考えていただきたいなと思っておりまして、ご検討いただければなと思っております。よろしく願いいたします。

議長： ありがとうございます。小学生の反応については小学校の校長として本当にその通りと同感でございました。あの最後に本当に利用者の方々に対しての本当に大切なものをお話していただいたように思います。本当にどうもありがとうございました。それでは以上をもちまして議事と報告を・・

今野委員： ちょっと一つだけいいですか。今年の事業計画の中で、今年って何の年だ、なんて話をよくするんですが、実質的には平成最後の年だよねっていう、でも天皇退位のスケジュールは最近のことなので平成を振り返るってことに関して何かやるってのはなかなか出にくいと思うんですけど、もう一つが明治維新150年で我々にとってみれば戊辰戦争150年明治時代のね、たぶんこれもなかなか会津とか下北とか盛り上がってますけど、じゃあ仙台藩の立ち位置も難しい物があって、宮城とか歴史博物館とかリードできるかっていうと難しかったでしょうけど戊辰戦争150年に引っかけてなにかやろうという話は出なかったでしょうかというのをちょっとだけお聞きしたい。

館長： あの別件かもしれないんですけど、二年ばかり前に高知の博物館の館長さんから、土佐と薩摩と長州の博物館で150年の何かやりたいんだけど乗らないか、という相談が持ちかけられたことがありまして、まずこの他の仙台市博物館なども含めて相談した上で答えましょうか、と言うところで話は終わったんですね。結局我々はその程度の対応でしたということをもちかけられた土佐の館長さんにはお話をしました。そのあと何も話はきませんので、こちらからの働きかけはないだろうと思っておりました。

今野委員： 別に何もやらないんですかと責めてるわけじゃないので。

笠原副館長： 戊辰戦争150年ということで具体的に館として展示等の取り組みとしては綱村の方が優先という部分でなかなか選択はできなかったということで、それはちょっと数年前から何年後はこういう展示だというのが前年度から翌年を考えるわけにいなかったもので、その時にはその頭がなかったというのもあるんですけどもそういう長期的なスケジュールの中で入れ込むことが出来なかったというのが実際のところでございます。

教育次長： 我々もですね、国の方から明治維新150年ということでのイベントの企画があるかどうかとの照会が参りました。わたしは個人的には戊辰戦争150年、記念すべき年ですので150年記念に平成29年は伊達政宗450年、平成30年には戊辰戦争150年、明治維新150年節目の年ですのでなんとかやれないかなと考えたのですが、東大寺展、これが本来であれば計画ではもっと早めにやれたかと思うんですが、これと重なってしまったということで残念ながら断念した、という経緯はございます。常設展の明治維新や戊辰戦争が展示してあるコーナーがありますのでね、奥羽越列藩同盟関連を常設展では出しているのではなかったでしょうか。少し工夫すれば展示内容に手を加えることができるかも知れません。今、思いつきでしゃべっていますので博物館側の了解をとっての話ではございませんけれども、仙台藩ならばこそ、奥羽越列藩同盟の名所になった白石城で奥羽越集まるとの列藩条項を添えて会津を守るんだということをしたというのもぜひ子ども達に教えていきたいと思っておりますし、亙理伊達氏が蝦夷地に渡って、蝦夷を開拓して成功に導いた、そして今、

北海道で伊達市という市の名前にまでなったというのを含めて亘理の方々は京都府の歴史で子ども達も交流を進めてらっしゃいますのでね、認識されてると思いますが、宮城県全体にそれがきっちり認識が伝わっているかなというのが若干個人的にはもう少し力を入れたいなと思っておりますが。繰り返しになります東大寺展とか、数年前からの計画のなかに若干あげられてなかったということもあり、今回は特別展としては残念ながら出来なわけですので、ぜひ河北新報さんに社名の由来でもございますのでなんらかの取り組みをしていただければありがたいなと個人的に思います。よろしくお願いいたします。

議 長： 特別展の中で話がありましたが私もうろ覚えなんです、近代に仙台藩も学兵隊を組織してとか北海道を渡ったとか県内でも明治維新にかかわったたくさんものがあると思いますので、そういった部分でも常設展のなかでも反映できるんだなとお話を伺って思いました。

他にございませんでしょうか。なければお陰様で無事議事の方を終わりました。本当にどうもありがとうございました。

7 その他 特になし

8 閉会のあいさつ 東北歴史博物館館長 鷹野光行

9 閉会